

# 「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」よびかけ人(アイウエオ順)

## プロフィールとメッセージ

### 池辺晋一郎



1943年水戸市生まれ。67年東京芸術大学卒業。71年同大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃、島岡譲の各氏に師事。66年日本音楽コンクール第1位。同年音楽之友社室内楽作曲コンクール第1位。68年音楽之友社賞。以後ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、国際エミー賞、芸術祭優秀賞4度、尾高賞2度、毎日映画コンクール音楽賞3度、日本アカデミー賞優秀音楽賞9度(内、3度最優秀賞)、横浜文化賞などを受賞。97年NHK交響楽団・有馬賞、02年放送文化賞、04年紫綬褒章を受章。

現在東京音楽大学教授、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、石川県立音楽堂・洋楽監督、横浜みなとみらいホール館長、せたがや文化財団音楽事業部音楽監督。ほか多くの文化団体の企画運営委員、顧問、評議員、音楽コンクール選考委員などを務める。作品：交響曲No. 1～9、ピアノ協奏曲No. 1～3、チェロ協奏曲、オペラ「死神」「鹿鳴館」「高野聖」をはじめ管弦楽、室内楽、合唱曲など多数。附帯音楽：映画「影武者」「檀山節考」「うなぎ」「瀬戸内少年野球団」「スパイ・ゾルゲ」、TV「八代將軍吉宗」「元祿繚乱」、など多数の映画・ドラマ音楽の他、演劇音楽約500本を担当。

「国際社会において名誉ある地位を占めたい」(憲法前文の一節)はずのこの国が、その名誉を捨てようとしている。世界中の戦火を消し去り、真の平和の牽引車になりうるその地位を放棄しようとしている。現政権の暴走は単に日本だけの問題ではなく、この星全体の未来に関わるものです。絶対に看過することはできません。力を合わせて、暴法成立を阻止しましょう！

### 井上鑑



1953年9月8日チェリスト井上頼豊の長男として東京に生まれる。和光学園中学校、都立青山高校を経て、桐朋学園大学音楽学部作曲科在学中(故・三善晃氏に師事)より、CM音楽作編曲家、キーボード奏者として活動を始め、その後、アレンジャー・プロデューサーとして多数のプロジェクトに参加。特に故・大瀧詠一氏とは自称師弟関係を70年代ナイアガラレーベルのコロムビア在籍時から維持し「Each Time」、「NIAGARA SONG BOOK I・II」「幸せな結末」等多数にプレーヤー、アレンジャーとして参加。2000年前後より福山雅治氏の作品作りに加わり、演奏、編曲、ツアーのキャプテンとして多数のプロジェクトに全面的に参加。2014年には初の海外公演を成功に導く一端となる。1981年 single「GRAVITATIONS」(ヨコハマタイヤ ASPEC TV-CM)、album「予言者の夢」で、ソロ・アーティスト・デビュー。以降、先鋭的なサウンドと現代詩ともいえる歌詞を駆使して13枚のアルバムを発表。ロンドンとの2拠点化が1985年頃から進む。David Rhodes(Peter Gabriel Band)、Simon Phillips、Jon Kelly(Kate Bush)、Tchad Blake 等との交友からは多数の作品が生まれている。舞踏、映像など音楽以外の創作活動への参加も数多く、編集的なセンスの鋭さで信頼関係を、長期にわたってコラボレーションを続けているアーティストもジャンルを越えて多数。

音楽は人をつなぐ力のある無形のエネルギー。

でも、そこには性善説のみでは語りきれない社会性が存在すると思います。それこそが平和で全ての生き物、環境、文化を大切にしていける社会を創ろうというイデーを音楽を通じて発信していく意味なのです。ひとりでも多くの音楽家、音楽関係者、聴き手の皆さんが今回のムーブメントに参画して下さることを願っています。

### 日下部吉彦



音楽評論家として関西を中心としたクラシック音楽の評論・講義、合唱にまつわる客演指揮・コンクール審査・執筆などの活動も展開

音楽評論家。大阪音楽大学理事。関西合唱連盟会長。1952年、朝日新聞記者を振り出しに、朝日放送音楽プロデューサー、解説委員室長などを歴任。14年間、テレビのニュース・キャスターを務めた。これまで、大阪国際室内楽コンクールフェスタ部門審査委員長のほか、全日本合唱連盟理事など数々の要職を歴任。現在は、音楽評論・講義のほか、テレビ・ラジオ司会、合唱指揮、審査、執筆等さまざまな活動を展開している。「いずみホール・ランチタイム・コンサート(企画・監修・トーク)」「佐藤しのぶ 出逢いのハーモニー(サンテレビ、KBS京都テレビ等)」などに現在も出演中。

### 栗山文昭



島根県に生れる。合唱指揮を田中信昭、高階正光に師事。2002年第20回中島健蔵音楽賞受賞。二期会合唱団、東京混声合唱団で研鑽を積み、現在15の合唱団を有する「栗友会」の音楽監督及び指揮者として活躍する傍ら、21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」の代表幹事として「Tokyo Cantat」「八ヶ岳ミュージックセミナー」などの企画に携わっている。全日本合唱コンクールにおいてはこれまで32の金賞と3回のコンクール大賞を受賞。海外ではスペイン・トロサ国際合唱コンクール(1994)、イタリア・アレッツォでのヨーロッパ・グランプリ合唱コンクール(1995)で東洋に初めてのグランプリをもたらした。他にも世界各国の国際合唱フェスティバルや文化交流事業での招待演奏を行ない、日本の合唱の実力を世界に知らしめると共に日本の現代作曲家の作品を紹介する役割を担って活動をしている。2007年10月にはイタリア・ポローニャで開催された第4回マリエレ・ヴェントレ国際合唱指揮者コンクール2007の審査員を務め、2010年12月に開催されたニューヨークにおける日本祭では、小澤征爾氏指揮の「戦争レクイエム」において合唱指揮を務め、好評を博した。2001～08東京芸術大学講師。現在、武蔵野音楽大学教授。グラントウ島根県芸術文化センターいわみ芸術劇場芸術監督。

いろいろな音楽で合唱ほどメッセージの強い音楽はないでしょう。先の大戦においても国民の音と声とが総動員され 国威高揚のためつかわれました。そのようなことは二度とあってはなりません。

私は一人の合唱指揮者として、表現の自由をもっとも基盤におき、活動を続けてきました。また、大学生の合唱団を連れ、アウシュビッツ、南京、沖縄、広島、長崎など戦跡を訪れ、そこで演奏を行って来ました。

合唱音楽を通し、学生たちは平和のよろこびをあらためて知ってくれたと思います。

また、私の合唱団では戦争と向き合った優れた合唱作品を多くとりあげます。それらを歌い続けることで少しでも現在の恐ろしい流れに抵抗し、平和憲法の大切さをうたえていきます。このように志しを共にできる方たちとの連繋を大切に、憲法違反の戦争法案を廃止に追い込みたいと決意しております。そして多くの音楽を愛する方々のご参加を呼び掛けたいと思います。どうか宜しくお願いします。

## 三枝成彰



作曲家 日本モーツァルト協会理事長 日本作編曲家協会副会長 東京音楽大学教授  
日本交響楽振興財団理事 日本現代音楽協会理事 全日本ピアノ指導者協会理事  
1942年生まれ。東京芸術大学卒業、同大学院修了。代表作にオペラ「忠臣蔵」、オラトリオ「ヤマトタケル」、映画「優駿」  
「機動戦士ガンダム～逆襲のシャア～」、NHK大河ドラマ「太平記」、「花の乱」。2004年、プッチーニの「蝶々夫人」を下敷  
きにした新作オペラ「Jr.バタフライ」を世界初演(2005年に神戸で再演)。この作品は2006年8月にイタリアのプッチーニ・フ  
ェスティバルでも再演され、話題を呼んだ。2007年、紫綬褒章受章。2008年、モノオペラ「悲嘆」、ピアノ協奏曲「イカの哲  
学」を世界初演したほか、日本人初となるプッチーニ国際賞を受賞。2010年、オペラ「忠臣蔵」外伝、男声合唱曲「最後の  
手紙 The Last Message」を初演。2011年、渡辺晋賞を受賞。2013年、新作オペラ「KAMIKAZE—神風—」を世界初演。

70年前に宣言した戦争放棄が、なかったことにされようとしています。そして、自由に考え、表現することも、許されなくなるかもしれません。

たくさんの国民の声を集めて次の選挙で現政権にNOを突きつければ、この流れはきっと変えることができます。ぜひ多くの方に、この運動にご賛同いただきたいと思います。そして、デモに参加しましょう。

## 新実徳英



名古屋生まれ。東京大学工学部卒業後音楽の道へ進み、東京芸術大学作曲科卒業。同大学院修了。  
1974年NET-TV作曲コンクール入賞。77年ジュネーブ国際バレエ音楽作曲コンクールにて史上二人目のグランプリ並びに  
ジュネーブ市賞を受賞。82年文化庁舞台芸術創作奨励賞並びに特別賞を受賞。83年ジュネーブ国際バレエ音楽作曲コン  
クールの審査委員を務める。84年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。IMCに入選。2000年第18回中島健蔵音楽賞受賞。03年  
別宮賞受賞。04年「風神・雷神」のCDが文化庁芸術祭大賞を受賞。05年万博記念オペラ「白鳥」が名古屋において世界初  
演され、この公演に佐川吉男音楽賞が授与される。06年オーケストラ・アンサンブル金沢のコンポーザー・イン・レジデンスに  
就任し、「協奏的交響曲～エランヴィターレ～」を世界初演し、第55回尾高賞を受賞。管弦楽作品の多くは、国内ではNHK  
交響楽団を初め主要なオーケストラ、海外でもスイス・ロマン、オランダ放送、BBCスコティッシュ、フランス国立放送、ベル  
リン、ニュールンベルグ等のオーケストラにより演奏され、それぞれ高い評価を得ている。現在、桐朋学園大学院大学教授。  
東京音楽大学客員教授。東北震災復興を願って、被災者の想いを合唱曲「つづてソング」として発信し続けている。

「言葉」は嘘つきだ、「言葉」に騙されるな、「言葉」の正体を見よ!!と自分に言い聞かせている。

## 藤井知昭



1932年京都府生まれ。1955年名古屋大学文学部哲学科(美学専攻)卒業。1957年同研究科修了。1974名城大学  
助教授を経て、国立民族学博物館助教授、教授、副館長、1996年3月退官、同名誉教授。また、1988年に国立の総合研究  
大学院大学文化科学研究科が設置されると、教授・比較文化学専攻長、文化科学研究科長を併任し、1996年3月退官、名  
誉教授。その後は中部大学中部高等学術研究所教授を務めた。現在、独立行政法人国立文化財機構「アジア太平洋無  
形文化遺産研究センター(IRCI)」所長。中日出版社より「藤井知昭著作集」全25巻が刊行されている。2014年瑞宝中綬章  
受章。

## 普天間かおり



沖縄県中城村出身 シンガーソングライター

琉球王朝の流れに生まれる。透明感あふれる歌声は、何よりも大切にしているライブ活動を中心として老若男女問わずに  
浸透している。2011.3.11、ラジオ福島「かっとびワイド」の金曜パーソナリティーとしても活躍。

「かっとびワイド」の生放送中に東日本大震災に遭う。

その後、「Smile Again 0311」支援プロジェクトを立ち上げ、避難所でのライブやチャリティーコンサートの開催、震災後に書  
き下ろした楽曲「Smile Again」を音楽配信、本の街 神保町の有志の方々と協力し、福島県の子どもたちへ本を贈る「スマ  
イル文庫」の活動も開始。音楽の枠を超え様々な分野の方々とつながりを持ちながら、その支援の輪を広げている。

2014年12月24日、普天間かおり初のカヴァーアルバム「Mellow」をテイチクより発売。

沖縄に生まれ育った一人として、平和であること、命の尊さを子どもの頃から聞いて育ちました。4人に1人が犠牲になった沖縄戦を生きた83歳になる私の祖母は、目の前で父親が撃たれて亡くなっています。そんな恐ろしいことが本当にあったのかという体験をしています。あんな思いは絶対にさせたくない、戦争はいけないうちに祖母たちは迷いが無いのです。その大事なメッセージを私たちはきちんと伝えていかなければいけないと思います。音楽を通してみなさんと一緒にその思いを重ね、輪が広がる「会」になることを願っています。

## 湯川れい子



東京都生まれ

昭和35年、ジャズ専門誌『スウィング・ジャーナル』のジャズ評論家としてデビュー。

エルヴィス・プレスリーやビートルズを日本に広め、作詞家としても活躍。代表的なヒット曲に

『涙の太陽』、『ランナウェイ』、『センチメンタル・ジャーニー』、『六本木心中』、『恋におちて』など

作品多数。また音楽が人の成長期や命そのものどう関わってきたか等、広く音楽療法の普及活動や、福島で被災した子  
供たちの支援活動、自然環境問題なども含め、精力的に活動している。

(社)日本作詩家協会 名誉会長/NPO 法人日本子守唄協会 会長/日本音楽療法学会理事/国連世界食糧計画 WFP 協  
会 顧問/他多数

憲法9条に反しての政治の暴走は、もっと正面から、法律的にも国民が訴えることさえ出来ると思います。それほどの非常事態です。頑張りましょう！